



平成7年11月1日  
 群馬県立  
 太田工業高等学校  
 同窓会  
 (0276) 45-4742

### 同窓会会員

#### 名簿の発行に向けて

会長 関 昌二

記録的な猛暑の夏が過ぎ、早くも晩秋を迎えようとしています。同窓会会員の皆様には益々御健勝にて業務に御精励の事と御推察申し上げます。

しかし、円高を中心とする経済情勢はまだ企業収益を圧迫しサラリーマン及び経営者の方々の、それぞれの立場に於ける御苦労に敬意を表したいと思います。

又、女子学生を中心としての就職戦線の厳しさが、連日マスコミで報道されていますが、本校に於ける就職活動に於ても、若干条件は良いにしてもこの様な社会環境下で、諸先生方が連日連夜私達の可愛い後輩達の為に御尽力をいただいている事に対して、御礼を申し上げます。

さて、三月一日に第三十一回を

数えます本校の卒業証書授与式が挙行され二百三名の新しい同窓会会員を迎えましたが、祝辞で「賢者は愚者に学ぶが、愚者は賢者に学ばず」という言葉を送りました。

これは私達社会人にとって意義深い言葉であると常々考えていると同時に、私自身の反省としてもしている言葉です。とかく日常の業務に追われて「学ぶ」という事を忘れがちですが「人間一生勉強」という言葉通りであると思えます。会員の皆様でまだ「茂木の新校舎」を訪問されていない方々はこの機会に一度母校の見学をされ「学ぶ」という事をもう一度再認識されます事をお願いいたします。

話は変わりますが、平成九年度に同窓会会員名簿を発行する予定で現在本部役員会として、発行依頼業者の選定が終了をし、具体的な準備に入っております。そこで会員の皆様にお願ひですが、常任幹事の方を中心として「クラス」

の仲間の名簿を再チェックしていただきたいと思ひます。その事が、内容の濃い同窓会名簿になると共に、久し振りに恩師を囲んでの楽しい「クラス会」と発展する事になれば幸いと思ひます。

最後になりましたが、同窓会会員の皆様の益々の御発展と御健康を祈念いたしまして、同窓会会報第二十四号発行に際しての御挨拶とさせていただきます。

#### ごあいさつ

学校長 若林 勝利

同窓会会員の皆様には、平素から本校の充実・発展のために御支援・御協力を賜り、心より感謝申し上げます。

この三月には、二百三名の卒業生を送り出し、新たな同窓会員として迎えていただきました。男子新会員にはタイピンが、そして女子会員には印鑑がそれぞれ贈られました。新会員の皆さんの今後の活躍を心より祈念するものであります。先輩諸氏のあたたかい御支援・御教示をお願い申し上げます。

さて、去る六月十六日の常任幹事会において役員が改選されまし

た。関会長さんには、引き続き会長職をお願いするわけでありますが、役員の皆様には、本会の一層の発展のために御尽力いただきますことに対しまして、衷心より敬意と感謝を表するとともに、心よりお祝い申し上げます。

今年には戦後五十年目の節目の年にあたり、国内でもまた海外でもこの半世紀を回顧し、反省することが行われております。高度経済成長の結果、わが国は今日平和のうちには繁栄と豊かさを享受していますが、成熟した経済状態のもとに長らく不況と求職難が続いております。とりわけ今年の就職状況は厳しく、本校三年生も気を引き締めて就職試験に臨んでいます。生徒諸君が、所期の目標どおり、進路決定ができますよう心から祈念するものであります。

一昨年設置された群馬県後期中等教育審議委員会が、審議を終えて今年の三月二十七日に最終報告書を出しました。新しい時代に対応する本県高校教育の改革について、今後の改善方策として、社会の変化や生徒の多様化等に対した公立高校の整備、男子校及び女子校の今後の在り方、公立高校入学

者選抜方法の改善等、貴重な提言がなされており。この報告書に基づき、これから改革が実施されていくわけでありますが、その第一歩として、平成八年度には武尊高校改め尾瀬高校に自然環境科が新設され、新田高校が総合学科高校として新たなスタートを切ることになっていきます。本校もこれからの時代に対応できる専門高校として、伝統を踏まえながら、新たな改革を積極的に推進していく必要があると思われ。関係各位の御支援・御協力を引き続きお願い申し上げます。

### 退職のごあいさつ

元機械科教諭 中島 勇作

昨年に続き今年もまた記録に残るような暑さの夏でしたが、九月の声を聞き、ようやく残暑の中にも朝夕のしのぎ易さで、ほっとしているところですが、会員の皆様にはお元気で活躍のこととご推察申し上げます。

私事ではございますが、この三月で定年退職と云う形で太工を去ることになりました。会員の皆様には永い間大変お世話になりました。ありがとうございました。

私が機械科の職員として採用されたのは、本校創立二年目で、内ヶ島の校地に、事務棟、校舎棟、体育館、実習棟が出来、校庭も整備されはじめた昭和三十八年でした。

あれから三十二年間がまたたく間に通りすぎて、人生の区切りを迎えたわけですが、太工の思い出を体中にしみこませて退職の運びとなりました。終わってみれば太工一筋ということになりました。その間多くの生徒、父兄、職員とふれあうことが出来充実した太工生活をすごすことが出来ました。これからの定年後を生きて行くのに充分すぎる程の心の糧を得ることが出来ました。

太工創立期、発展期、校舎全面移転と創立三十周年記念事業等、太工発展の節目々の学校作りに一職員として参画出来まして太工で仕事したんだという充実感でいっぱいです。

教科は機械ですので機械科の生徒とは授業の中でいろいろ苦・楽ありましてとても書ききれませぬ。美術部や必修クラブ美術では他科の生徒と活動を共に致しました。

美術部 一期生が創部し、私は

生徒に絵を描くのが好きだと自己紹介したばかりに、顧問となり他にやってくれる職員も出てこなかったためもあり三十二年間顧問を通してしまいました。高校美術連盟を他校と作ったこと、部展のこと、工業祭のこと、スケッチ旅行で盛り上がったこと等いろいろありますが、OBの中にはこれをきっかけに研鑽を重ね、美術団体の審査委員をしているもの、その道の登竜門である安井賞展に入選したもの、地域の公民館活動で指導者をしているもの等、また部活経験がなくても日展(洋画)に入選とがんばっている人もおります。

私も会員の皆様のそれぞれの場での活躍を刺激にこれからの時間創作活動や、その道の指導者として地域に貢献できる生活を送れればと思っております。

会員皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

### 太田工業高校の

#### 思い出を通して

前事務局長 近藤 弘

平成六年度末の人事異動で館林高校へ転任になりました。太田工業高校へは五年間勤務 せていた

だきました。この間、林進一前会長、関昌三現会長を始め役員の皆様には何かとご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

いろいろな思い出がありますが創立三十周年記念式典や野球部雨天練習場の建設、大型機械の設備更新等の事に携われたことは大変幸せでした。なかでも、創立三十周年記念式典における、当時の高校長協会会長・金井秀一先生のすばらしい祝辞は今も忘れることが出来ません。太田工業高校硬式野球部が昭和五十八年の群馬大会において優勝し甲子園へ出場したことを称えて「人間というものは、普段から力一杯の必死の努力を積み重ねている限り、時にすばらしい力を発揮することが出来ることを見事証明してくれた。考えてみると、このことはスポーツに限らず勉強や人生すべてのことに通ずることであり逆に言えば、誰もがその潜在的能力を秘していることである」と述べられ生徒達や私に大いなる希望と感動を与えてくれました。

太田工業高校が創立された昭和三十七年当時は、まだ日本全体が貧しく高校へ進学できる人は五

〇%にも満たず、卒業後の進路を考へて実業高校を希望する人の多かつたことや、太田工業高校へ進学する人の多くが優秀だったことを良く覚えています。しかし三十三年が経過した今、豊かな社会を反映してほとんどの人が高校へ進学するようになり、太田工業高校の生徒にも、運動や勉強に真剣に取り組んだことのない人が見られるようになりました。若いうちに是非、自分の力を試して欲しいし、自分の力を信じて努力して欲しいと思います。

私も中学生の子供を持って、生徒とだぶらせて自分の子供を見るのが良くありますが、自分の子供を教育する難しさを痛感しています。家庭教育が崩壊したと言われて久しい気がしますが、子供の幸せを願う親の気持は昔も今も変わりません。

これからますます高校教育は期待され重要視されることと思いません。私は教師ではありませんが、高校教育を担う一人として今まで以上の努力をしてゆかねばと考えています。

最後になりましたが太田工業高校並びに同窓会のますますの発展をお祈りいたします。

## 太田工業高校に赴任して

総括事務長 大杉 幸一

同窓会会員の皆様には、常に学校教育の充実と発展のためご支援とともに、同窓会運営においてご協力くださり心より感謝を申し上げます。

この度の人事異動により、群馬県立桐生女子高等学校より総括事務長として赴任いたしました。

昭和三十九年四月より五年間本校に勤務いたしました。当時は新設工業高校として、地元の企業発展に大きな期待を受けて内ヶ島に校舎が完成した頃であります。

また、東海道新幹線の開通、東京オリンピック開催と、日本は経済高度成長とともに、大きく飛躍、激動の時代でした。翌年三月に第一期生を社会に送り出したのが昨日の様に思われます。

それ以来、八千余名の方々が本校の卒業生として誇りをもって、地域社会の発展に寄与されていることに心打たれます。平成元年、校舎の全面移転により茂木地区に学園を置き早くも六年が経過いたしました。

学校施設・設備も近代化され生

徒の授業、実習内容が々高度化されて来ています。今、社会は何を求めているかをしっかりと掴んで学習しなければなりません。先輩である会員の皆さんは、常に母校愛を忘れることなく、後輩のために新しい情報を学校へ持ち込んで頂きたいです。

この夏、神奈川県で教員している第一期生が懐かしさに学校に訪れて来ました。夏休みで故郷に帰って来たが、母校が気になった様子でした。電気科の波形先生が対応しましたが、在学中の頃を思い出した夕方までいました。さらに、近年卒業された人達が大量訪問され、近状報告している様子を拝見し、同窓会員と学校との連携が密に出来る学校である様に私達職員は、皆さんをお待ちしております。

近年の学校教育は多様化により大きく変化して来ています。特に生徒の個性を伸ばせる教育に一層力を入れて来ています。技能審査の成果が単位認定として認める時代となりました。学校が時代の変化に対応できるように、微力ながらも努力する所存であります。

本校と、同窓会の益々の発展のため会員の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

## 青春の三十年

第一期E 阿部 寛

学校一会社と太田の地に三十数年、生活の一部とも言える太田の様々な歴史が、己の成長の礎になったと言っても言い過ぎではないでしょう。いつの間にか会社人間となり、日々努力致してきます。幸いにして諸先輩の方々と仲間恵まれ、平凡な生活を守りつつ永年勤続へと近づきつつあります。現在、日常の担当職務と共に、採用関係で、高校生の求人にも走りまわり、時期的に忙しい日々であります。

高校の門をくぐる度に、若き日の心に胸を熱くします。全国多くの先生にお会いする度に、素晴らしい教訓と感動を覚えます。自分達がお世話になっていた頃に、先生の苦勞など一度も考えた事もありませんでした。しかし、先生方の暖かい心によって、「私達の青春が、しっかりと見守られていたんだな」とつくづく感じます。

当然県内の高校へも訪問させて頂いておられますので、昔懐かしい先生にお会いする機会が多いです。

出身科に関係なく、多くの先生が覚えていてくれた事に幸せを感じます。学校発足時の材木担ぎ、仮校舎からの集団移動、集団生活、就職、等々：話題が尽きません。又、私の仕事である求人活動への尽力を頂きつつ、大きな力となる人脈まで切り開いて頂き、大変助かっております。ありがたいです。学校時代の三年、今でもしっかりと脳裏にあります。先生方に改めて感謝致します。

話変わりますが、先の本同窓会報でMOTC支部事務局長(工藤)より紹介した、当社の近年の変化について触れたいと思います。合併企業として安定成長の期にあり、私達同窓会員五十名の成長はもちろんの事、フランス人との仕事や生活交流も当たり前になり、田舎の地に、小さな国際感覚が生まれつつあります。「同じ釜の飯」そのものであり楽しいものです。今や私達の支部の目標は、太田工業高校の後輩が、さらに増え百人になる事です。一同楽しみに致しております。

社会人三十才、業務を通じて日々青春時代に直面し、その感動と、大切な学校生活の思い出を記させて頂きました。

### 早くも、二十三年目

第八期C科 江原 三郎

一九七二年、太田工業を卒業以来、早二十二年と半年の歳月が経ってしまいました。

当手を振り返りますと、就職活動を始めた矢先、ドルショックが起り、求人が激減し、はて、どこへ就職したらよいのか、大変に悩みました。

又、夜学希望も有り、勤め先選択には、大変な困難を窮めました。どうか現在の企業(アキレス)へ就職を果たし、希望通り進学も致しましたが、仕事の内容は、ソロバン片手に数学との格闘です。

高校、短大時代に習った化学を忘れるには、大した時間は、かかりませんでした。ホンの数年です。替わりに、ソロバンの足算、引算はうまくなりました。三桁程度なら珠を見ずに、弾ける様になりました。正に化学がバケ学と、なっていました。

現在は、そのソロバンも電卓、そして、パソコンへ取って変わって中々、うまく弾けません。日々の経つのは、本当に早い(いや速い)ものです。超ハイテク時代の昨今、四十を過ぎた、オジサンが、

これに、ついて行くのは、難しいものです。

「四十にして惑わず」と言いませが私などは、道に迷って右往左往しています。しかし、この右へ左への行ったり来たりの中から、新しい何かを見つけ、仕事、そして、私生活へ活かし、日々を過ごしております。

取りまとめの無い寄稿となりましたが、私も、これからも頑張ります。皆様も、充実した、日々をお過ごし下さい。

### 時代の流れ

定時制第五期 大竹 八郎

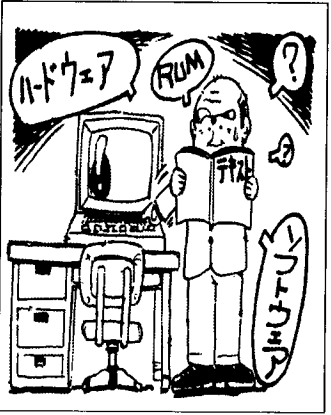
太工を卒業して早、二十二年が過ぎました。在学時代機械関係の仕事でしたが電気工事や、アンテナ工事などを経て現在大竹スタンプ(ゴム製造業)を営んでいます。

ゴム印と一口で言っても製造方法をご存じですか?活字で型を組み石膏で鑄型を作り、生ゴムを流してゴム印を作ります。これが従来の製造過程ですが、現在では写真植字機で版下を作りカメラでリソフィルムを作ります。それにAPR樹脂を流し露光して樹脂版を作り母型材にて母型

それにラバーを流してゴム印を作ります。

今、なるほどザワールドと言うテレビの番組の中でAPR樹脂印のコマーシャルを放送しています。ご存じですか?母型を作らずにハンコが出来てしまうのです。又、現在ブームになっているパソコンで版下を作りゴム印を作ることも出来ます。自筆、イラスト、図形など、何でもゴム印にすることが出来るようになりました。

現在パソコンを特訓中ですがなかなか上達しません。とまあ簡単にゴム印の歴史とでも言います。うか、ふれてみました。創造性をふくらませることで、あんなことがこんなことが、出来るようになります。ゴム印に限らず色々なものが時代の流れと共に進歩していく中で取り残されないようにしたいと思っております。



今にして思うこと

第二十四期C 小林 義雄

一九九五年は年明け早々、阪神大震災、地下鉄サリン事件と、大波乱の幕開けとなりました。連日テレビでもこの話題一色で、治安の良い国と言い切れなくなっているこの頃です。

話は変わりますが、太田工業を卒業して早七年、同窓会報などを読むと高校時代が懐かしく思えるのは年をとった証拠でしょうか。今にして思えば、高校の三年間は本当に有意義な時間でした。朝起きて自転車を飛ばして学校へ行くそして授業、楽しい教科もありましたが、そうでない教科も・・・。

いと感、午後の授業も終えて放課後へ。毎日と同じリズムで過ごしていた三年間でしたが、毎日がうれしさがありません。

卒業しても気の合う仲間とは時々集まっておりますが、皆あの頃とは少しずつ違って来ています。学生の時は無かったはずの前歯が社会人になったらきれいな歯並びになった者、高校の時から大好きだったモータースポーツが今も変わらず好きで、暇さえあれば車をいじっている者、結婚して子供が出来、すっかり父親らしくなった者もいます。当の私はと言いますと、あの頃から少しも成長してないようですが。

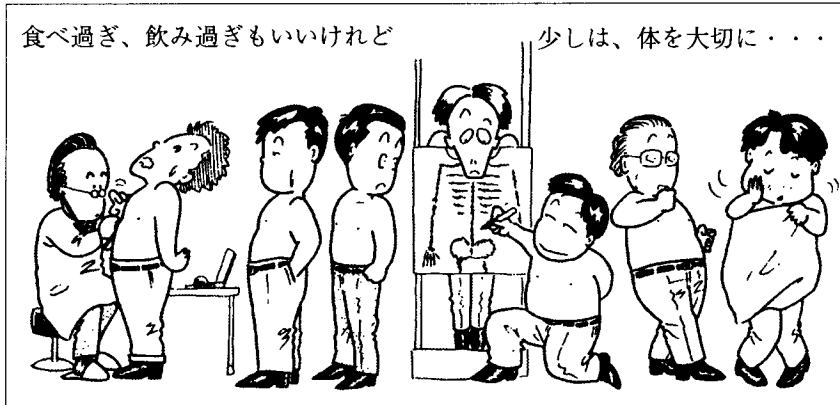
同期の友人とは別に、私のまわりには太田工業卒の先輩が多数いらつしやいます。それぞれの方がユーモアがあり、個性の強い方達です。皆年代がちがうのでその頃自分の太田工業はこんな学校だったという話をしております。高校が同じというだけですが、それだけで親しみ易く、他の人には言えない様な事でも気軽に話す事ができます。先輩とは良いものだなと思つと同時に、いつか私も太田工業卒の後輩とかかわり合う日がくるかもしれない。

になる先輩になれる様、のうちから努力していこうと思つています。

社会人となつて

第二十七期C科 大関敏夫

在学中の時は現在もたぶん変わつていないと思つていますが、三年間クラス替えもなく担任も変わらず、



クラス全員に近い人達にアダ名が付けられました。担任の先生は、先生という実感がなく良き理解者、良き相談相手、又、良き友達だったような気が卒業してから気が付きました。私は在学中はラグビー部に所属しており、クラブ活動も結構強かつたような気がしております。(現在はラグビー部が休部という話を聞きましたがもし本当ならば残念です)クラブ活動も練習が厳しく、先輩に指導された思い出が残っております。でも練習や試合の時は先輩、後輩の区別なく、アダ名で呼んでいたの仲間意識が強かつたです。

私は卒業後、東武鉄道に入社し、同期が二十二名でしたが、クラブ活動のお陰で、同期の仲間にもアダ名を付けて、すぐうちとけました。職場の人間関係も良く、最初はもつといい会社があり、給料も多く頂ける会社へ移りたいと思つておりましたが、現在はそのような気持ちもなくなり仕事に励んでおります。私は太工時代に修得したものは、良き先輩、良き先生、良き友達だったと思つています。

これからも太工の為に何か出来る事が有れば参加をしていきたいと思つています。

学校だより

職員異動 平成七年四月

- 近藤 弘事務長 館 高へ
- 星野 豊先生 (工化) 館 高へ
- 山形 正高先生 (電気) 桐 工へ
- 竹澤 義衛先生 (情技) 伊 東高へ
- 河内 康昭先生 (機械) 館 商工へ
- 新井 博之先生 (電気) 太 西女へ
- 飯嶋 隆之先生 (機械) 伊 工へ
- 角田真由美先生 (事務) 前 工へ

次の先生方は新任の先生です。

- 大杉 幸一事務長 桐 女より
- 青山 敏之先生 (電気) 館 商工より
- 下山 紀之先生 (電気) 桐 工より
- 今泉 稔先生 (機械) 館 商工より
- 八木橋まさこ先生 (事務) 西 邑 楽より
- 高橋みゆき先生 (家庭) 桐 女より
- 町田 邦彦先生 (国語) 沼 田 高より
- 藤間 博人先生 (情報) 館 商 工 更
- 高田 治先生 (機械) 館 商 工 更
- 高澤 幸男先生 (機械) 新 任
- 中山 義則先生 (保体) 新 任
- 小島由希男先生 (情報) 新 任

次の先生方が退職されました。

- 中島 勇作先生 (機械)
- 茂木 金司先生 (情報)
- 富田美亀江先生 (国語) 地 公 臨
- 吉田 久男先生 (電気) 非 常 勤
- 西村 満朗先生 (柔道) 非 常 勤
- 井出記美代先生 (情報) 非 常 勤
- 小玉 英子先生 (数学) 非 常 勤
- 坂本 範行先生 (情報) 兼 務

1994 (平成6) 年度 進路状況及び就職状況

●進路状況 (卒業生203名)

平成6年3月22日現在 ( ) 内は女子

| 就 職 希 望     | 115名 (2名) |     | 進 学 希 望  | 88名 (2名) |           |
|-------------|-----------|-----|----------|----------|-----------|
|             | 内 定       | 未 定 |          | 合 格      | 未定/進学努力継続 |
| 学校斡旋企業 (県内) | 87 (2)    | 0   | 四年制大学    | 12       | 2         |
| 学校斡旋企業 (県外) | 19        | 0   | 短期大学     | 6        |           |
| 公務員         | 2         | 0   | 短期大専校    | 6        |           |
| 縁故就職        | 6         | 0   | 技術専門学校   | 10       |           |
| 自営など        | 1         | 0   | 専修(専門)学校 | 50 (2)   | 2         |
| 計           | 115 (2)   | 0   | 計        | 84 (2)   | 4         |

進路状況及び就職状況

平成六年三月二十二日現在

三年生二百三名、うち就職希望者百十五名(57%)、進学希望者八十八名(43%)です。

昨年は就職希望者58%、進学希望者42%。一昨年は就職希望者63%、進学希望者37%。少しずつ進学希望者が増えてきています。

求人会社数は、五百五十四社(群馬・二百五十四社、関東・百七十八社、東京・八十九社、その他・三十三社)で、ここ数年減ってきています。

昨年は九百七十三社、一昨年は千三百六十社、一作昨年は千五百五十社。昨年度に比べて44%の減少です。これは不況が産業界に浸透し、生産が相当落ち込んできていることを示す数字です。特に一部の大企業(電気機器、半導体関連、自動車など)の採用中止や求人数の減が目立っています。幸い中小企業の採用意欲の高いところが多いのですが、今まで本校の生徒に人気の高かったそういう会社の技術職は求人が少なくなり、技能職での求人が多くなって来ています。

編集後記

常日頃より同窓会に対し御理解と御協力を頂きありがとうございます。会長も、会報の中で記述しておりますが、名簿の発行の準備を進めている時期ですので、会員の皆様方も住所、会社等が変わりましたら、同窓会事務局まで御一報頂ければ幸いです。又、個人的で申し訳御座居ませんが、菰川地区にOB会が組織されておりますので、是非参加されたい方は大関(TEL四五〇九一七)までご一報下さい。歓迎致します。最後にになりましたが、原稿をお寄せ下さいました皆様方に紙面をお借りしてお礼申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。

大関 記

